

○1番（大谷 勝治君） こんにちは。昼まで最後の質問となります。大谷勝治です。季節の変わり目、少しのどがいがらっぽく、先日耳鼻科に行ってまいりました。今は簡易な検査で体の状況がつかめる時代となりましたが、体調管理にも十分努めたいというふうに思っています。

梅の花が一輪、一輪と咲き、桃の節句が過ぎ、中学校の卒業式が昨日行われました。長く感じた冬が今、春めいてまいりました。この後、東員の自生種である桜とイヌナシの開花が待たれるところです。東員町は町長の施政方針の中にありますように、町制50年の節目の年、今年は次の50年に向けてのスタートの年となります。

それでは長くなりましたが、通告書に従って、この3月定例会では3項目の質問をさせていただきます。同僚議員と多くの質問がかぶるところもありますが、よろしくお願いたします。1項目めは東員駅周辺の開発について、2項目めは新産業について、3項目めは交通行政についてであります。

それでは1項目めは東員駅周辺の開発についてお伺いたします。開発エリアの展望をお聞かせください。

1、今の農福連携事業の事業所と朝市、施設ガラス温室の今後の展開についての考えをお伺いたします。2、ネオポリス地区からの移動・移住想定はどのようですか。3、開発地のインフラ整備について、水道水源の確保をどのように考えていますか。以上よろしくお願いたします。

○議長（島田 正彦君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 東員駅周辺の開発についてご答弁申し上げます。

開発予定エリア内にある育苗研修交流施設は、平成4年に竣工し新しい農業を考えるための研究、実践活動、農業指導、公共施設への花の提供など幅広い利用を目指すとともに、町民の憩いの場としても自由に参加できる施設として建設されました。

設置当初は、町民の利用も多くありましたが、数年後には、ほとんどこの施設は使われなくなりました。町といたしましては、遊休施設の有効活用を図る観点から平成20年度から「ふらわあーびれっじ運営協議会」が毎月第1・第3日曜日に展示棟を活用した「朝市」を開催されております。また、平成21年度からは、花卉クラブが花木棟を活用した花づくりを行っていただいております。こうした町民の皆様との協働で施設の活用を図ってきております。また、平成27年度からは、管理棟を拠点として就労継続支援A型事業所「シグマファームとういん」が野菜栽培を中心とした事業を展開しております。しかしながら、この施設は、今、計画を進めている東員駅周辺の中心市街地形成を予定しているエリア内に含まれますことから、施設全体を廃止する、要するに取り壊す方向で考えております。これからは開発段階に入っていきますが、農福連携事業の事業所の設置場所は別に検討しなければならないと考えております。朝市につきましては、同様あるいはそれ以上の機能を持った場を求めるのか、今後も継続するのかも含め、場所のこともございますので関係者とも協議しながら検討を進めてまいりたいと考えております。

2点目のこの開発エリアの移住想定ですが、これまでも述べてまいりましたが、開発エリア内には、高齢者向けの住宅などを検討しておりまして、主として2世帯、3世帯住宅が建てにくい笹尾・城山地区の高齢者の方の住み替えを想定いたしております。高齢者あるいはひとり住まい世帯で大きなスペースの家が必要でなくなったとき、日常生活の機能がコンパクトにまとまった駅周辺に移住していただくということにつきましては、選択肢の1つだと考えております。笹尾・城山地内に住む方で、この選択をされた場合、空いた住宅に若い人が入居されれば、高齢化が進んだ笹尾・城山地区において人の循環が促されるものと考えております。こうした人の循環は、笹尾・城山地区の若返りや高齢者が健康でアクティブな生活を進めるための選択肢の1つだと考えております。

残余につきましては担当部長から答弁させていただきます。

○議長（島田 正彦君） 近藤建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） 私からは3点目の水道水源確保をどのように考えているか、これについてご答弁申し上げます。

現在の水道事業におきましては、計画給水人口3万人、計画1日最大給水量が1万8,600m³、これにて運営を行っております。なお、平成28年度決算の状況としましては、給水人口2万5,569人、1日最大給水量1万16m³でありましたことから、東員駅前開発が実施されましても、現在の施設で十分給水できるものと考えており、新たな施設建設が発生することについてはないと考えてございます。以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 大谷議員。

○1番（大谷 勝治君） 答弁いただきました。先ほどの水道水源については3万人、人口2万5,344人ということで余裕があるのかなというふうに思っていますが、町全体の配水量最大ということでお聞かせ願いましたが、このものについての予備的なものというのを聞かせください。

それと確認の意味で、東員駅前開発が今後順調にいけば、町長のお答えのように取り壊しとなるわけですが、この取り壊しが32年度ぐらいになるのかということと、私が12月議会で、今後も継続していくと伺っておりますが、どこに、いつ、どのような形で継続していくのかということ、そういった取り扱いについてもう少し詳細にお伺いいたします。よろしく願いいたします。

○議長（島田 正彦君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） ガラス温室の建物の取り壊しにつきましては、まだ詳細は決まっておられませんので、時期的なことははっきりは申し上げられることではないと思うんですが、早ければ32年度ぐらいになるのかなというふうに思っております。また朝市につきましては、その朝市をこのままこの形で継続するのかもしれないのかも含めて「ふらわあーびれっじ運営協議会」の皆さんと話し合いを持つ必要があるんだろうなというふうに思っております。

○議長（島田 正彦君） 近藤建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） 予備的なものということとは、言い換えますと予備能力とい

うことで考えてよろしいでしょうか。それでございますと、平成28年度の最大給水量、これが先ほど申し上げましたとおり1万16m³ということで、東員町の計画配水量としましては1万8,600m³でございますので、実績からいうと差し引きますと8,584m³ということでございます。以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 大谷議員。

○1番（大谷 勝治君） 答弁いただきました。町長の答弁の中に、私の考えるところは、やはり身近なところで買い物ができればと考えています。そして行政の皆様にもこのことをよくお考えの上、このことを進めていただきたいというふうに思っています。

○議長（島田 正彦君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 朝市というのは、今非常に出店者もお客さんも減ってきているんですが、地域でとれたものを地域で提供するといういわゆる直売ですよ。そういう機能を持っているのかなというふうに思っていますが、実はこの開発エリア内に、例えば「うりぼう」だとか「いなべっこ」だとか、そんな直販のような機能を持った施設の誘致ということも考えられるのかなというふうに思ってます。その場合、この朝市というのはボランティアでやってきていただけていますが、機能が整えば、その役割は終了するのかなということで、そういうことも含めて、そういう機能を持ったものを誘致するということも含めて、この「ふらわあーびれっじ運営協議会」と協議していかなければいけないんじゃないかなというふうに思ってます。

○議長（島田 正彦君） 大谷議員。

○1番（大谷 勝治君） 答弁ありがとうございます。32年度ぐらいに取り壊すという話ですが、この事業は大体10年ぐらいかかるということなので、そうするとその事業が終わった時点で、町長の言われるようなものになっていくのか、それか取り壊した後、どこかに持っていくのかというのが1点知りたいので、よろしく願いいたします。

○議長（島田 正彦君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） この事業が確定すれば、当然民間開発エリアが一番最初になりますけども、造成工事が始まります。造成工事が始まれば、当然このガラス温室を含めてそういうものは取り壊していかないと造成工事ができないということになりますから、造成工事が始まったら別の建物を建てるかということは、それは不可能でございます。10年というのは、おおむね10年の間にある程度のまちづくりができるということがこの開発の条件みたいなものになってますので、10年以内にそういうまちの形ができてくるというふうに思ってますが、そういう今言われた機能を持ったものが10年先にできるのかというと、そうではなくて、もしできるとすればもっと早い段階でできるということになってくるというふうに思ってますので、そういうことも含めながら「ふらわあーびれっじ運営協議会」と協議していかなければいけないというふうに思ってます。

○議長（島田 正彦君） 大谷議員。

○1番（大谷 勝治君） 答弁ありがとうございます。町長の言われるように、早い段階でそういうものは作っていくんだということで、場所等についてはまだ未定だということな

ので、今後の推移を見ていきたいというふうに思っています。答弁ありがとうございました。

それで建設部長の方にお尋ねいたします。今後の水道の値上げという問題もありますけども、需要が増えれば今後水道事業の経営にもいい影響があるのではというふうに私は期待しております。これは答弁結構です。

続きまして2点目をお伺いいたします。高齢者の受け入れ、新たな転入者の受け入れ、確認いたしますが、中日新聞によりますと、都市部からの移住というのがありますという話でしたが、そういう移住者に対して、それは高齢者なのかどうか、どうお考えなのかというのをお知らせ願いたいということと、サービス付き高齢者住宅を確保してネオポリス地区からの循環を促されるわけですが、若い人たちの受け入れについてはどのようにお考えでしょうか、ご答弁よろしくをお願いします。

○議長（島田 正彦君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 朝からちょっと答弁してますように、笹尾・城山地区につきましては、先ほども答弁申し上げましたように、選択肢の1つとして、今住んでみえる住宅が子どもたちがたくさんいて住むようにできてますから、住むには広いよねと。だけど、出ていった子どもたちが帰ってきても2世帯になるだけの土地はないよね。そうするとそこに高齢者2人で住むにはちょっと広いよね、あるいは1人になったら広いよねといった方が選択肢の1つとして、ここに住宅を求めるということはあり得る話ではないかなというふうに思っております、その用意も我々は考えていかなければいけない。それがサービス付き高齢者住宅なのか有料老人ホームなのか、その辺はまだちょっとわかりませんが、これも事業者と協議していきたいというふうに思っています。

また、ここには一般住宅も当然できます。それについては、先ほどのご質問に答弁申し上げたように、若い子育て世代に入っていくには最適な場所ではないか、まちの真ん中にある学校もあり駅もあるわけですから、もし通勤するのでも車がどうしても必要かというところでもない。電車を利用していただければ名古屋に1時間以内に行けるという場所にありまから、非常に便利な場所になるというふうに思っていますので、若い子育て世代の方に入居していただくには最適な場所になるのではないかなというふうに思っています。ただ、どういう方が選択されて入られるかということは、我々はまだ予測もつきませんので、誘導するわけにもいきませんし、我々としてはそんなことを考えているということでございます。

○議長（島田 正彦君） 大谷議員。

○1番（大谷 勝治君） 答弁ありがとうございました。町長が先ほど言われたように、若い人たちも集うまちだよと、そして高齢者が集まるまちでもあるよということで、そのまちづくりに関して2つの選択肢がある中で、コンセプトが大きく違ってこないかなという懸念があります。この点についてどのようにお考えでしょうか、よろしくお願ひいたします。

○議長（島田 正彦君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） この駅前開発エリアにつきましては、ここには子どもから高齢者まで集う、そんなまちが非常にふさわしいのではないかなと。ですから子どもにも高齢者に

も安全・安心して暮らしていける、そんな安全なまちづくりというのは必要ではないかというふうに考えております。

○議長（島田 正彦君） 大谷議員。

○1番（大谷 勝治君） 840人という人口フレームの中で、それを開発としては18.2haという中で今やられていくわけですが、このことについては、後々私たちは、私含めて団塊の世代が後期高齢者に達する2025年問題も見えてくるわけですが、高齢者に優しいまちづくりも必要だと私は思っています。それでハウスメーカーさんのアイデアもいただきながら、ぜひよりよいものにしていただきたいと、そのように思っています。答弁はいいです。

続きまして3点目の開発地のインフラ整備についてということで質問させていただきました。続きまして2項目めの新産業についてお伺いいたします。

1、大豆栽培が今後東員町の農業ブランド特産品になるように期待しておりますが、他にも特産物に取り組んでいる農作物はありますか。12月の議会の中で東員町には特産物は今はないですよというお話があったように思います。2点目、大豆栽培が農福連携事業と関連性があるのかお伺いいたします。3点目は儲かる農業として、大豆栽培による6次産業化の構想がある一方、農業従事者が減少している現状です。町内の他の農振地域でも市外化編入への要望があるとお聞きしております。そういった場合、市外化は可能なのかお伺いいたします。よろしくお伺いいたします。

○議長（島田 正彦君） 門脇建設部参事。

○建設部参事（門脇 郁夫君） 大谷議員の「新産業について」のご質問にお答えいたします。

新産業創造推進事業は、既存産業の活性化と新たな産業や雇用、就業機会の創出を図るため、町の貴重な財産である農地の活用と「農業を核としたまちづくり」の推進に取り組み、地方創生へと繋げることを目的としております。その第一段階の取り組みとして、町内で150haの栽培実績のある大豆に着目し、6次産業化事業の推進により基幹産業である農業分野での新産業の創出、しごと創出を目指してまいります。

大豆以外の農産物特産品といたしましては、喜び農業推進事業で取り組んでまいりました「ぶどう」、「ブルーベリー」の実証圃場を民間へ移行し、栽培面積の拡大を図りながら本町の特産品として育ててまいります。その他の新しい作物につきまして、現在、町内の若手農業者と栽培技術を持った農業法人が協力して取り組めるよう検討を重ねております。

2点目の大豆栽培と農福連携事業の関連でございますが、大豆栽培による6次産業化事業の展開により、農業の産業化や農業に附随した産業を育てることで農業にかかわる雇用の機会を創出し、農福連携事業で取り組んでおります福祉事業所農業から一般就労できる場の拡大に繋げてまいりたいと考えております。

3点目のご質問ですが、議員ご指摘のとおり本町におきましても農業者の高齢化や後継者不足などから農業従事者は年々減少しております。現在、行われている農業は収益転換の薄い農

業形態がほとんどであり、若い世代が農業に魅力を感じる産業となっていないことが大きな要因でございます。大豆栽培による6次産業化事業の推進は、こうした現状の農業形態を魅力ある農業・産業に変え、若者や新規就農者が農業に従事できる環境を整え持続可能な農業経営の展開を図るとともに、農村地域の保全や水源の涵養など多面的機能の発揮の場として将来にわたって農地を守っていくことも大きな目的でございます。

次に、東員駅周辺地区とは別に他の地域での市街化区域編入への可能性についてのご質問でございますが、本町のみならず全国的に人口が減少している状況下で市街地を拡大することは難しくなっております。また、市街地の拡大に当たっては都市計画法、農地法、農業振興地域の整備に関する法律など厳しい規制や条件をクリアする必要がございます。しかしながら、このような厳しい状況の中、町制50周年を迎えた本町がこれからの50年に向け持続的な発展を図るためには、東員駅と役場など公共施設に囲まれた地域を市街化編入し、町の中心として機能させることこそが本町にとって重要な施策であると考えております。この政策実現に向け国・県の関係機関と粘り強い協議を重ねた結果、その必要性に理解を示していただき市街化編入の可能性が見えてまいりました。このようなことから町内でも唯一市街化編入の可能性がある当該地域以外の可能性は今後ないものと考えておりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

○議長（島田 正彦君） 大谷議員。

○1番（大谷 勝治君） 答弁ありがとうございました。市街化編入への要望につきましては、様々な手法があると思われまます。町としても鋭意研究をしていただきまして、このような要望にも応えていけるようなことを望みます。

現在の東員町における大豆栽培面積と収益ということで伺いました。一昨年、同僚議員への答弁では水田と畑地面積を合わせて677.4haとお聞きいたしました。今後どの程度まで大豆栽培を拡大させる予定ですかお伺いいたします。

○議長（島田 正彦君） 門脇建設部参事。

○建設部参事（門脇 郁夫君） お答えいたします。

まずは新しい品種の大豆を農業法人2社で実証栽培していただきますが、その後町内の農業者に普及していきたくと思っております。いずれにしましても、大豆加工品の消費需要に応じて、現在の栽培実績であります150haを拡大していきたいと考えておりますが、これはあくまでも加工品の消費拡大と連動するものでございますので、今どれだけ拡大するという数値をお示しすることはできませんので、よろしくお伺いいたします。

○議長（島田 正彦君） 大谷議員。

○1番（大谷 勝治君） それでは、このままいくとして工場ですけども、平成33年9月には大豆加工施設建設後の稼働となるわけですけども、これについてどれぐらいの目標を持っているのかということをお尋ねいたします。よろしくお伺いいたします。

○議長（島田 正彦君） 門脇建設部参事。

○建設部参事（門脇 郁夫君） 本年4月から加工品の開発と販路開拓を進めながら、平

成31年度中に大豆製品の加工施設の規模を決定していきたいと思っております。平成33年9月には製品加工施設稼働を目指してまいります。

大豆製品化工場の初期段階での売上額といたしましては、現在6,500万円を計上しております。しかしながら、加工品の開発と販路開発により、この売り上げというものは大きく変わってまいりますから、この計画を上回るよう企業・農業者と連携しながら、しっかりと取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

○議長（島田 正彦君） 大谷議員。

○1番（大谷 勝治君） 答弁ありがとうございました。私もこの販路に関して、東員イオンの方で3日間やられるということなので行かせていただきました。結構おいしいなというふうに思ってます。この製品に関しては、私も非常に有望じゃないかというふうに思ってますので、ぜひこれを成功させていただけるようによろしくお願いいたします。

それでは次の質問に移っていきます。現在こういう農業に関するということ、ブドウだとかブルーベリー、こういう特産物づくりというのをやってこられたわけですが、その他、例えば地域でこういうものを起こしているんだというのがあれば、そのことについてお伺いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（島田 正彦君） 門協建設部参事。

○建設部参事（門協 郁夫君） お答えいたします。

儲かる農業ということで私どもは推進しておりますが、町内の農業者様には、現在まで作ってきた米・麦・大豆の栽培になれておるといところがございまして、なかなか新しい作物へのチャレンジというものをしていただけない状況でございますが、ようやく新しい農業経営を目指す若手の農業者と先進技術を用いました農業法人が協力して新しい作物に取り組むということで協議いただいております、その作物については、この辺では栽培されておりませんニンニクとキクラゲでございますが、まだまだ協議の最中でございますので、これからこの2つの作物について、私どもも入りながら推進できたらいいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（島田 正彦君） 大谷議員。

○1番（大谷 勝治君） 答弁ありがとうございました。私の聞くところによりますと、お酒造りもやっているんだよという話も聞いたので、そこら辺を少し聞きたかったかなというふうに思っております。

そして農福連携の大豆栽培がどのように連携されていくのか非常に関心の持たれるところです。三重県におきましても、ゴマ栽培を農福連携事業として実施しているところもあります。ぜひ行政におかれましても今後研究いただきまして、発展を望んでおりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（島田 正彦君） 答弁は要りますか。

○1番（大谷 勝治君） お酒の件について答弁よろしくお願いいたします。

○議長（島田 正彦君） 門協建設部参事。

○建設部参事（門脇 郁夫君） お答えいたします。

お酒の件ですが、六把野というお酒でいいですか。六把野というお酒を今年初めて、六把野の農事組合が売り出しましたが、この売り出し方法としては、とりあえず多度の酒造屋へお米を持ち込んで、そこに六把野というラベルを付けたというだけで、農業法人にとってはあまり利益に繋がっていないということですので、今後このことを含め私どももお米で儲かるような取り組みというものを考えてまいりたいと思っております。

それと三重県が取り組んでおりますゴマ栽培でございますが、この四日市の九鬼産業のゴマ栽培、実を言いますと私どもシグマファームさんでも27年度から、面積は小さいんですが取り組ませていただいております、今後も収益に繋がるような事業となっていくならば、シグマファームさんの方の面積拡大ということも考えられるのではないかと考えております。よろしくお願いたします。

○議長（島田 正彦君） 大谷議員。

○1番（大谷 勝治君） 答弁ありがとうございました。農業政策についても鋭意やっていただくということなので、よろしくお願いたします。

それでは交通行政についてということで伺わせていただきます。コミュニティバスに代わる交通手段についてよろしくお願いたします。

○議長（島田 正彦君） 質問の内容をもう少し詳しくお願いたします。

○1番（大谷 勝治君） コミュニティバスというのは、今オレンジバスということで同僚議員からの質問もありましたけども、私は今回、新しい東員町駅前開発において、例えば去年も質問させていただきましたけど、オンデマンドのそういった試行はできるのではないかとということなので、そこら辺に関して答弁よろしくお願いたします。

○議長（島田 正彦君） 齋藤総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） 「交通行政について」のご質問にお答えいたします。通告書に従いましてオンデマンドという形の総論について答弁させていただきたいと思っております。

本町のオレンジバスは、定められたルート・ダイヤで運行する定時定路線型で、バス停まで行くとダイヤに合わせてバスに乗車でき、目的のバス停到着時間もあらかじめわかる利点がございます。ご質問いただきましたデマンド交通は、一般的にバスより小型のワゴン車や乗用車等が利用者の予約に応じて運行するもので、その方式や発着地の組み合わせによりまして多様な運行形態がございます。オレンジバスと同じようにルート・ダイヤを定めて運行するものから、タクシーのように利用者の家から目的地まで運行するものまで幅広い運行形態がございます。

様々な運行形態を持つデマンド交通の共通のメリットとしましては、乗客がだれも乗っていない運行を抑制することができることや公共交通の空白地域をカバーできることが挙げられます。特に利用者の家から目的地までを運行するデマンド交通は、非常に便利であると感じられます。また、それらの運行をできるだけ「乗り合わせ」で行い、輸送効率を向上させることもデマンド交通導入の大きな目的に挙げられます。

このような反面、デマンド交通は予約が必要で、その手間が煩わしいと感じられる方も見えます。またデマンド交通導入の大きな目的である「乗り合わせ」が実際は個人利用に偏ってしまうケースが多いことも導入市町の検証の中で報告されておりまして、利用の増加が費用の負担増に繋がってまいります。一方、利用者の家までいくデマンド交通では「乗り合わせ」が多くなると、何軒もの家を回りますので発着時間の正確性が欠けてしまう可能性もあります。

非常に便利に感じられるデマンド交通ですが、その導入に際しては公共交通としての利便性、高額な委託経費に対する効果の他、対象エリアや運行形態など十分な研究が必要であると認識しています。

オレンジバスは、年間10万人を超えたご利用をいただいておりますが、さらに多くの方にご利用いただけるよう今後も様々な角度から調査研究を行い、本町に適した公共交通の形態を構築してまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願いいたします。

○議長（島田 正彦君） 大谷議員。

○1番（大谷 勝治君） 答弁ありがとうございました。それでオンデマンドの話が出たわけですが、なかなかこの部分について進捗状況がわかりにくいということです。今回、先ほどお尋ねしたように駅前開発について、こういう実証実験はできないのかというふうにお尋ねいたします。このコンパクトシティの中での実証、それが行われることによって新たなコミュニティバスなどの開発に繋がっていくというふうに思っていますので、こういう実証実験と言われるようなものについてお尋ねいたします。よろしくようお願いいたします。

○議長（島田 正彦君） 齋藤総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） コミュニティバス等そのデマンド交通、これにつきましては、まずやはりコミュニティバスを基本に考えさせていただいて、十分でないエリアが当然ございますので、そのニーズに応じた予約対応という形で、それを補完する形で運行していくのが本来よいのではないかと思います。ただ今後の駅前開発等につきましては当然市街化形成区域の構成、そういったものを見ながら、それに合わせてバスルート等も見直しは発生するものと考えております。またデマンドにつきましては、これは実証運行云々もありますが、やはりコミュニティバス全体の運行方法と合わせて検討させていただきたいと思っております。以上です。

○議長（島田 正彦君） 大谷議員。

○1番（大谷 勝治君） 答弁ありがとうございました。私は今後50年、日本の人口は3割が減少していくと言われる社会現象の中で、今回の東員町のとる施策というのが正しいと思います。今から始まる労働力の減少、社会の活力の低下、こういった負のスパイラルの他に、私はこれから人が繋がっていくような移動のイノベーション、こういったものが今後急速に進化してくるのではないかと思います。そういったものについての東員町としての見識どうか、そしてそれを投資していくのかとかいう話を最後にしたかったわけです。

移動のイノベーションの実証実験の場になるのかなというふうに思いましたので、ぜひそういうことに関してやっていただきたいというふうに思っております。産業として大豆のあり方も今後注目していきたいというふうに思っています。

今、巷ではイノベーションの呼び方で、人口が増えないとそういった活性化ができないのではないかとされている中ですが、それでもイノベーションという新しい技術を用いたようなところでは人口減少とは違う儲かるものがたくさんあるというふうな指摘もございます。東員町といたしましても、人口減に歯止めをかける、そして若い人を呼び込む、活性化してく、その一方でそういったところにもぜひ取り組んでいただきたいというふうに思っています。これで私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。